



# くまがみね

学校だより  
2023 (令和5) 年12月18日  
福山市立熊野小学校

## 「日本語」は難しい＝おもしろい ～ 学び続ける教職員であるために ～

年末を控え、今年を表す漢字や流行語大賞などがマスコミで取り上げられる時期となりました。日本語は、他の言語と違う特徴があります。例えば、英語では「I」という表現。日本語では「私」「ぼく」「拙者」「吾輩」「それがし」「手前」…など、日常会話で使うことはないかもしれませんが、様々な表現があります。私たちは、知らず知らずのうちに、それらを TP0 によって使い分けているのです。日本語は使い方が難しいと思う反面、だからこそ、おもしろいのだと思います。あらためて、日本語の奥の深さを感じます。

### 正しく、美しい「日本語」を使う (礼儀正しさも含めて)

子どもの前に立つ教員は、自分の発する言葉に敏感になりたいものです。日頃から正しい日本語、美しい日本語を使うことを意識したいのですが、流行りの言葉や表現を学校現場でも使ってしまう、敬語の使い方を知らないなど、先生の言葉づかいが正しいとは言えない現実もあります。気になる表現を例にあげてみます。

#### ○「やばい」… この一言であらゆる感情を表現する言葉

昔から使われている言葉ですが、特によく耳にします。様々な状況で「やばい」を使えば、何となく意味が通じます。本来使わなければならない言葉を表現する必要がなくなり、簡単に済ますことができます。例えば、「驚いた」「すごい」など。教育現場で「やばい」が氾濫すると、豊かな表現力、語彙力がつかないのは明らかです。

#### ○「…、なので、…」 省略した接続語 (順接) の口語での多用

最近あまり聞かなくなりましたが、テレビに出ているアナウンサーでも、「なので」を使っていて驚きました。本来は、「○○なので、○○。」のように使うのですが、なぜか「なので」だけが独立して順接として使われています。口語では慣用的に使われるのかもしれませんが、子どもが作文や日記で「なので」を書いていると、さすがに「間違い」としなければなりません、しかし、それに気付かない先生もいるのではないのでしょうか。

## 熊野小学校の自慢 ～ 子どもといっしょに遊ぶ先生たち ～

大人になって、「小学生の時の心に残っている先生は？」と聞かれたら、どんな答えが返ってくるでしょう。「いっしょに遊んでくれた先生」という回答が多いのではないかと思います。特に若い先生は、ベテランの先生に、指導力や授業力で追い付かないという弱点を、子どもといっしょに遊ぶことで補うことができるのです。

授業力を磨くための教材研究は大切であり、日頃から学び続ける姿勢をもたなければなりません。しかし、すぐに授業力は高めることはできません。日々の積み重ねが必要です。

一方で、いつも子どもと遊んでくれる先生なら、どんなに拙い授業を展開しても、子どもは先生に付いていくものです。それどころか、先生を助けてくれるでしょう。

私は、「休憩時間にどれだけ多くの先生が運動場に出て、子どもと一緒に遊んでいるか」が、「よい学校の条件」だと思っています。熊野小学校では、多くの先生方が、大休憩や昼休憩に、運動場で鬼ごっこ、サッカー、ドッジボール、バスケットボールなどをして遊んでいます。ありがたいことです。子どもたちもうれしいだろうと思います。



## 年末年始休業について

学校は、12月28日(木)～1月4日(木)まで閉じています。  
緊急の連絡がある場合は、下記へお願いします。

福山市役所 代表 084-921-2111 夜間 084-921-2130

